

---

# 連載の番外編

雲霧 柚留

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

連載の番外編

### 【コード】

N4995L

### 【作者名】

雲霧 袖留

### 【あらすじ】

大きい物語の小さいお話。

## 番外編なの

番外編ばっか乗せていきます。

お相手は一緒のまま。当たり前です。

そうですね〜白猫ばっかが乗ると思います。

白猫は得意中の得意だから。

（・・・）待っててくれると嬉しいの

みにばえむ。

ダイスキだっついていいたいの

待っててくれれば嬉しいの

ぎゅってしてくれると嬉しいの

すきって言うてくれたら嬉しいの

大きい物語の

ちっちゃいお話を

みんなでのぞこうよ

甘いお菓子と

甘い紅茶と

甘いお話で……………。

女の子だけの秘密の時間

鯨は泳ぎ上手!?

ツナの泳ぎの練習のために、市民プールに来た3人

「あれ見てください、10代目!」

「すごい速さだな!」

凄い速さで泳ぐ人がいて、みんな目が釘付けだ。

ざばっ

「あ、あがってきたみたいだな!」

「あ、あれって」

「あら? ツナじゃないの。」

「・・・アルティ」

銀髪についた水分を絞りながら、アルティはツナたちのほうを向いた。

「ねえ、誰かいつしよに泳がない?」

「じゃあ、俺が行くぜ!」

「OK、ツナ、タイム計って」

パシッ

アルティが投げたストップウォッチを、ツナは上手く受け取った。

「じゃあ、100メートル先に泳いだほうが勝ちね。」

「よ、よーい・・・どんっ!」

バシヤツ!!!!

水しぶきと音が響き、アルティは山本をいとも簡単に抜かし、ターンをした。

それを2回繰り返し、アルティは壁にタッチした。

「私の勝ちー」

「すげーな!」

「ツナータイムは?」

「い、1分60秒!」

「あちゃー遅くなった・・・」

アルティならオリンピックにも出られるだろうとおもったツナでした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4995/>

---

連載の番外編

2010年10月12日05時51分発行